

中央材料室この一年

中央材料室看護係長 佐野 雅美

私が中央材料室異動になってから、早いもので7ヶ月が過ぎた。初めの頃は業務を覚えることで精一杯だった。そして、中央材料室の業務がこんなに大変なものだとは、想像もしていなかった。滅菌の知識は、看護師ならば当然理解していると思っていたが、自分の知らないことが、こんなにあるのかと思い知らされる毎日を送っている。

中央材料室の平成16年度の年間目標は、下記のとおりである。

- 1) 安全で安心な滅菌物を提供する。
- 2) いつも笑顔で対応する。
- 3) 挨拶は必ずする。
- 4) 報告・連絡・相談をしっかりとる。

中央材料室は、いつも安全、正確な滅菌物の提供はもちろん、限られた物品を効率良く払いだしていかなくてはならない。ときには払い出しの物品が不足し、違うもので代用できないか交渉し、先を読みながら物品を準備し、提供していかなくてはならない場面もある。それらを円滑にするためには、他部門とのコミュニケーションが重要になってくる。業務に流され表情が乏しくなりがちだが、窓口の迅速な対応、言葉遣いなど気配りしてきた。今後も、受ける側の立場にたった払い出しを心掛け、気持ち良く声かけしてもらえらる中央材料室を目指していきたい。また、業務では何度か単純ミスが重なり、払い出しが遅れたことがあった。自分だけの仕事をするのではなく、声をかけあい、一人で判断せず確認する事の重要性を再認識した。

人事では6月係長1名手術室から中央材料室へ異動、7月看護補1名手術室へ異動、8月半日看護補2名新規採用で配属となり、10月准看護師1名加わる。現在のスタッフは、係長1名、准看護

師2名、看護補2名、半日看護補4名で勤務している。

動向については9月看護部より、災害時対応のため履物は、シューズかバックバンドの付いたサンダルのみになった。中央材料室もそれに伴い、9月16日より洗浄室を土足入室に変更した。クリーン室のみスリッパに履き替えることとし、出入り時はウエルバス手指消毒を義務づけた。

室内でのキャップ、マスク着用は以前より検討されていたが、他部門から必要性を問われることや、滅菌物を取り扱っていることから10月中旬より施行した。初めは慣れないせいか不評の声もあったが、必要性は伝わっていたので現在は問題なく経過している。11月には医療機能評価があった。中央材料室にサーベイヤーが入るのは初めてだったが、無事問題なく終了した。普段から評価される機会が少ない部署なので、とても良い刺激にもなり勉強になった。

滅菌機の稼働率は表1に示したが、昨年と比較するとオートクレーブ稼働回数は減少のみである。しかし、ガス滅菌に関しては横ばい状態が続いている。単包物品が多く、器械カストも半分くらいの使用のみで、返納されてくるものがほとんどである。

来年にむけて

1. 器械カストの内容検討、単包物品の在庫確認。
 2. 各部署に払い出されたままになっている在庫物品数の把握。
 3. ガス滅菌の回数を最小限度にし、過酸化水素低温プラズマ滅菌機（ステラット）が活用できるよう調整。
 4. 敷布、穴明き敷布等のディスプレイ化検討
- 以上を課題にして取り組んでいきたい。

表1 【滅菌機稼働回数状況】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
オートクレーブⅠ	95 (106)	99 (97)	111 (118)	118 (105)	84 (97)	93 (102)	90 (106)	102 (101)	94 (102)	95 (96)	95 (88)	95 (106)	1171 (1214)
オートクレーブⅡ	76 (102)	96 (94)	103 (102)	114 (104)	94 (110)	104 (106)	103 (117)	104 (107)	106 (109)	93 (117)	101 (96)	105 (108)	1199 (1279)
ガス滅菌機	19 (20)	19 (19)	23 (20)	21 (22)	19 (21)	22 (22)	21 (22)	22 (22)	20 (20)	20 (22)	20 (19)	21 (20)	247 (247)

()の中の数字は平成15年のデータです